

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501418		
法人名	有限会社すずらん		
事業所名	グループホーム潮風		
所在地	三重県津市阿漕町津興214番地2		
自己評価作成日	評価結果市町提出日	令和4年4月18日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470501418-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和4年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染防止対策の継続を図っている中で、面会の制限等例年とは異なった関わり方となっています。
 入居者様・ご家族様・職員も含めて大家族と捉えている潮風の基本的な考え方は変わっていない中では、希薄になったご家族様との交流は電話・メール・文書というツールに代えて健在です。入居者様の近況とスナップ写真は文書に託しています。
 災害時の避難方法については、定期的に文書を発信してご家族様との情報共有に努め、危機感を共有する中で有事に備えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍でさまざまな苦勞をしていると思われるが、そうしたことを感じさせないよう工夫をしている。日常の家庭生活の延長になるよう、食事には決まったメニューにこだわるのではなくその日その日に話し合っ決めていくこと、家族が来訪すれば個室に入ってゆっくりしてもらい(感染防止にもなっている)こと、トイレは本人の意思に任せてあえて声掛けしていないこと(賛否はあるだろうが)、全体的に見守りを十分にして必要な介護を行い、利用者本人に恥をかかせない対応に心がけていること等に事業所としての運営上の工夫や苦勞を感じる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人がその人らしく暮らせる個々に合わせたオンリーワン支援を工夫する中で、笑顔溢れる暮らしを大切にしている。入居者を中心にご家族、職員が思いをひとつにした日常的な関わりの中で、我が家に居るよりのんびりと過ごして頂いている。	「個々人に合わせたオンリーワン支援、笑顔あふれる暮らし」を理念として、職員がいつでも確認しやすいよう壁のあちこちに貼っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で制限あるものの、地域を交えた交流は潮風の基本方針としており、毎年恒例になった、手作り減塩味噌作り、干支置物作りは社会情勢・状況判断をしながら実施している。	コロナ禍で地域の人と相互に交流するのは難しい。以前は民生委員がよく出入りしてくれたが、今は後任者も決まらず、自治会役員は1年交代のため交流しにくい。それでも事業所から今できる催しを案内し誘っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍であり、以前のような情報発信は出来ないものの、地域の中の認知症専門施設としての役割も担えるようになってきている。専門施設として分かり易く情報発信出来るように努めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染拡大防止を一番に考えて、今年度は文書のみでの発信にとどめ開催は見合わせた。地域行事として毎年恒例となった干支の置物作りは感染防止対策を徹底する中でメンバーにも声掛け一部参加して頂いた。	集まって話合えないため、その時々事業所の実情を文書にしてメンバーに手渡し、その際に多少とも話し合っている。メンバーは市担当・自治会長・地域関係2名、家族2名である。	文書を手渡し話し合っているが、その記録がされていないので、折角の意見交換が残されていない。できれば返信用封筒も渡して意見・感想等を求める等の工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍でめっきり市役所に出向く機会も減少している中、介護保険更新やその他の手続き等の機会を利用して、その都度の相談等適切なアドバイスを頂いている。	市に相談すれば、その都度親切に教えてくれる。しかし日常の運営に市からあれこれ意見をされることはほとんどない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについては、潮風の指針及びその具体的な例を示し、全ての職員の共通認識としている。個々の危険の回避、安全対策を講じる方法等についてもご家族様の要望を踏まえて随時検討している。	身体拘束防止委員会はあるが、日常の職員とよく意見交換しており、委員会名は使っていない。玄関は鍵をしないが、だまって出ることもなく、そんな動きがあれば止めるよりどうしたいか聞いている。職員はよく見守りしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止については、入居者の人権の擁護、虐待の防止等の観点から、指針の整備、研修の実施が義務付けられている。潮風虐待防止マニュアルにより認識を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度についてのパンフレットを使用し、認識を深め、マニュアルを常備して制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に至る迄のプロセスを伺う中で、ご本人やご家族の思いや希望を十分傾聴し、話し合いを深めるように努めている。潮風とご家族が思いをひとつにした相互理解をした上での契約としている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中で、思いを言い出しやすい雰囲気心掛けしている。一方で面会の機会や文書発信等を利用して、ご本人の状況や近況を示す中でご家族の思いや希望を聞かせて頂き、希望の実現に向けた支援を工夫している。	最近の来訪者は少ないが、来訪すれば感染対策をした上で各部屋に案内している。事業所から家族には度々手紙を出している。今は近からの入居者が多く、家族の協力は得やすいが、要望や意見は出ていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で情報の共有、情報交換を密にしている。情報共有ノートを日常的に活用し、その時々々の意見や提案、困りごと等をリアルタイムで記入し、その都度の問題解決へと繋げている。	定期的職員会議はなく、毎朝の集まりでその時々々の必要な用務を全て打ち合わせている。日常の出来事、共有事項はすべてノートに書き、読んで確認している。研修・認定講習等の申し出があれば費用の援助はできないが、時間は保障している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員のライフスタイルを優先した勤務体制を出来る限り優先している。個々の職員のモチベーションが高められるような支援を心掛け、頑張った職員が報われるような賃金体系へと繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苦手分野ある職員には、力量のある職員や管理者が克服に向けたサポートを心掛けている。その内容については全体の問題として捉え、話し合う機会としたり、内部学習として取り上げる等、資質の向上に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍であり、潮風としては入居者・職員の命を守る行動を最優先課題としている。日々変動見られる社会情勢に応じたコロナウイルス感染防止対策の徹底を図っており、外部との接触・交流等については見合わせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントした情報等を含めた中で、本人の願いやご家族の思いをゆったりと傾聴するように心掛けている。寄り添う中で信頼関係を築き、安心感を持って頂けるような関係作りへと繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの苦悩や葛藤をゆったりと傾聴する中で、不安に思っている事を把握、本音を吐き出して頂けるような対話を心掛け、信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	表面的な訴えだけに捉われることなく、対話している中から、真に必要な支援を見極めていく。相談内容を傾聴する一方で、専門職としての見解を示し、必要な支援へと繋げていくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の家事など個々に出来る事は職員と協働で行って頂き、共に仕事をする中で得意を發揮して頂いている。そのような機会がご本人の意欲を引き出し、自信の回復、生活力の喚起へと繋がっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	潮風は入居者・ご家族・職員がひとつの家族であり、日常的に気軽な交流となっている。ご本人にとっては潮風が我が家であり、ご家族にとっては実家でもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族からの情報等を聞かせて頂く中で、今迄の本人を取り巻く環境等を勘案、可能な限り入居までの関係が途切れないように、大切にしながらの支援に努めている。	家族に「利用者生活歴調査票」を記入してもらい、馴染みの関係等を把握しているが、コロナ禍で来訪も外出も控えており、地域との交流は難しい。利用者の症状も進行し、以前の関わりを忘れていく。それでも暖かい時間には散歩に出たり、なつかしい場へドライブに出ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の身体状況と性格、趣味や職業など、今迄の生活環境を勘案する中で、相性の良い方を見極め、より良い関係作りへと繋げて行けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退居となった方、看取りをさせて頂いた方、そのご家族が立ち寄り下さったり、入居者の紹介をして下さる方もおみえになる。又運営推進会議、行事等にも参加して頂くなど、日常的な交流をさせて頂いている方もみえる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族の思いや希望をしっかりと傾聴する中から、ご本人にとっての最適な方法を引き出していけるよう努めている。	入居時に家族から本人の趣味・好み・意向等を聞いている。利用者毎に独自のアセスメントシートを作り、支援中に把握できた事を記入し、共有している。食べたいものあれば、その日のメニューを急遽変更することもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や過ごし方など、ご本人、ご家族からの情報を基に、今迄慣れ親しんだ暮らし方が尊重出来るように常に心掛け、日々の生活に反映出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の暮らし方や価値観を尊重した日課を工夫する中で、生活力の喚起が図れるような側面的な支援を心掛けている。その時々々の思いや希望を取り入れた過ごし方が可能となるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族がどのように過ごしたいと思っていられるか聞かせて頂く中で、状態の変化に応じたリアルタイムな検討を重ね、本人らしい過ごし方の実現に向けた介護計画を立案している。	家族の来訪時や電話で話し合いの上、6カ月毎に全職員との意見交換(モニタリング)と細かく書かれた日常記録を参考にケアプランを作成している。できたプランは家族にも送付し、署名してもらっている。管理者がケアマネジャーである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を基本に捉える一方で、情報共有ノートを日常的に活用している。リスク管理に必要な情報の共有、特記の記録、個々の状態に応じたリアルタイムでの詳細な援助方法等、個別な支援、検討に活用し、支援の充実へと繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人がその人らしく暮らせる個々に合わせたオンリーワン支援を工夫している。日常的にご家族との交流もあり、その都度の状況に応じた最適な方法話し合う機会ともなっており、柔軟な対応が可能な環境となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	基本的には、地域、自治会、医療関係者、入居者ご家族との協力、交流ある中で社会性の充実を図る生活作りを工夫しているが、コロナウイルス感染防止対策の徹底を図っている今年度は、外部との交流は制限したり見合わせたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の入居者、ご家族の意向を反映した上で、協力医療機関による24時間の在宅医療サポート体制がある。定期往診・定期受診に加え随時の相談、診療体制も可能となっており安心できる体制を構築している。	利用者の多くは入居前の医療機関に通院しているが、脳神経関係医が多い。協力医療機関には24時間在宅サポート体制があるので助けてもらっている。宗教上で診療拒否する利用者があるが、協力機関で説得し、コロナワクチン接種等予防の対応をしてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関、特に看護師とは日常的に情報を共有している。リアルタイムな情報提供、情報交換を密にする中で、その都度適切な指導やアドバイスを頂ける安心できる体制が構築されている。又地域の看護師との交流も多い。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師、看護師、ソーシャルワーカー、地域連携室等との交流を日常的に行う中で最善な対応が可能となるような関係作りの構築に日々努めている。人となりを含めた介護サマリを作成し情報提供、療養生活を側面的に支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、日頃からご家族、主治医との話し合いを重ね、万が一に備えている。一方で個々の終末期のあり方についての情報を職員間で共有、その方とご家族にとっての最善な終末期ケアに向けての意思統一を図っている。	これまで約20件の看取りをしてきたが、家族の要望で最後まで世話になりたいの声に応じてきた。看護師が必要な場合は協力医療機関の訪問看護が対応してくれている。看取りをした家族がその後の入居者を紹介してくれた例もあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	慌てず的確な行動が可能となるように、緊急時に必要なその対応方法を、全職員に具体的に示し、情報共有する中で認識を深めている。一方でその方法を事務所、施設内に具体的に掲示して、とっさの場合に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	具体的なその方法をリアルタイムで情報発信し、職員、ご家族、地域の中で情報共有をしている。ご家族様等には随時文書により情報を発信し有事に備えている。協力医療機関でもある津生協病院付属診療所を津波避難場所としており、認知症の施設としてはとても心強い。	4月、9月、11月に防災避難訓練をした。訓練でも変に騒ぐと利用者が興奮するので、職員に落ち着いて訓練するよう徹底し取り組んでいる。消防署は同席していないが、防災業者が点検を兼ね参加してくれた。有事の避難を配慮し利用者別にヘルメットや薬等携行品を備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライバシー、プライド、人格の尊重については、職員間で十分に意思統一を図り対応している。個々に応じた、その人にふさわしい対応をその都度工夫している。	利用者本人が何を、どうしたいのか、に注目しながら、本人に恥をかかせない対応を心がけて支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の気持ちに寄り添う中で、その都度の思いを共有、共感し、真の思いが意思表示して頂けるように、側面的な働き掛けをその都度工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自信を持って生活して頂けるように、職員はさりげなく、その日の身体状態や精神面に配慮しつつ、ご本人の希望を取り入れた過ごし方が可能となるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着心地、安楽な着脱を優先しつつも、好みを優先したコーディネートをして頂いている。ヘアスタイルも身だしなみとして、こまめに潮風カットを楽しんで頂いている方、行きつけの美容院へ行かれる方、と個々の希望に合わせた対応をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	潮風は温かみのある手作りの家庭料理が自慢です。旬の食材を献立に加えたり、行事に合わせた食事やおやつで季節感を楽しんで頂いています。職員も同じテーブルを囲み、会話しながらの食事やおやつは楽しみな貴重な時間となっています。	食材は事前に管理者が購入して保管し、メニューはなくその日その日に希望や話し合いによって決めている。職員が交代で調理し、利用者にはテーブル拭きなどできることをしてもらっている。食後は摂取量を記録している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー・栄養成分・水分量・好み・主治医の意見等を勘案する中で、個々の摂取の目安を決めている。個々の口腔機能に応じた調理形態と好み等を考慮し、食事を楽しみとして頂けるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の残差物の除去、朝夕の歯磨き、うがい等個々に応じた適切な方法で口腔内洗浄を実施、夜間は歯ブラシ、コップ等はミルトン、義歯はポリデント、それぞれ洗浄後消毒している。個々の状態に応じた方法で口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意ある方、曖昧な方を問わず特別な事情がない限り昼夜トイレ使用を基本としている。気配や訴え時に自然な排泄が可能となるように自立支援している。オムツ交換全介助者については定期及び随時に対応し清潔保持に努め、皮膚状態等の観察を実施している。	トイレに行く、行かないは本人任せであえて声掛けもしていない(半分出ている場合もある)が、必要な介助はしている。利用者の依存を避けたいと考えている。看取り状態の人以外は常時おむつ使用もしていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用する中で個々の排便リズムを確認、必要に応じた対応を実施している。一方で食生活を工夫したり、他の入居者と楽しみながら行える体操、歩行等、運動の機会を工夫して、整腸に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	健康維持、爽快感、気分転換の手段として入浴を楽しんで頂いている。すぐに忘れて何度も身体を洗ったり、何度も浴槽に浸かたりされる為、見守り、声掛け等を実施、安全確認する中で、思い思いに入浴を楽しんで頂いている。	1日おきに4人、5人に分けて入浴している。時間は午後で、入浴後に洗濯をしている。一人用浴槽であるが、介護しやすい形状である。入浴をいやがる人は着替えを面倒がる人で、入れば気持ちいいと言っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合わせて、楽しみな時間を共に過ごすように心掛けている。午前中は避難場所でもある潮風前アパート駐車場への全員散歩が日課となり、季節を感じて頂く機会、体内時計調整にも役立っており、夜間の安眠へと繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋にて薬効、薬害、リスク等の認識を深めている。服用方法についても、誤配、誤飲を未然に防ぐため、3段階チェックを徹底している。実際の介助の際には、手渡し、服用迄の見守りを徹底、安全対策を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員も含めた大家族の中で、出来る家事を分担し協働する事が、自身の役割意識、家族的な連帯感を育てている。毎朝のコーヒータイム、食事は職員も含めた大家族で楽しんでいます。笑い声が絶えない空間であり、安心できる居場所となっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染防止対策の徹底を図っている中、施設内でのレクリエーションが基本的な日課となっている、トランプ、声を合わせて歌ったり、楽しそうにされている場面が以前より多くなりました。社会情勢を勘案する中で、感染防止対策徹底を図り、地域交流でもある恒例の干支作り、減塩味噌作りは実施しました。	散歩は天気が良ければ毎日出かけている。体力的に遠くまで行けない利用者が増えている。時にはドライブにも出かけるが、小さい車のため2人ずつ交代で乗せ、職員2人体制で対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望される物、食べたい物等をおやつに取り入れたり献立に加えたりの対応を実施している中では、特に使い道もなく、お金に対する執着もなくなっています。認知症状によるトラブル(猜疑心をあおる)への発展が懸念される事をご家族様にも説明し共感ある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナウイルス感染防止対策の徹底を図っている中、ご家族様、知人の方との交流は希薄になっている。不要不急の面会自粛を基本としている中、ご家族様には近況報告を手紙にしたため、その都度スナップ写真も同封している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビング、廊下、各居室には季節を感じて頂けるような掲示物を工夫している。入居者の得意を發揮して頂く機会ともなっている。行事のスナップ写真や個々の思い出の写真なども多く掲示しており、満足げに眺めては会話の糸口ともなっている。	明るいリビングで昼間はみなが集まり、適宜唄ったり、ゲームしたり、手作り品と一緒に作ったりしている。壁にはみなで作った品や個別の作品(書や絵画等)があちこちに飾っており、それぞれの存在感を感じさせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは日常的に集う場所となっており、余暇の交流を楽しむ空間となっている。ソファでは気の合う人とおしゃべりや職員、ご家族様とのふれあいの場ともなっており、我が家のように思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだこだわりの物を配置したり、楽しく過ごした思い出の写真等を掲示、落ち着ける場所となるように工夫している。コロナ以前はご家族知人の面会時には、お茶を囲んでゆったりと過ごして頂ける空間ともなっていた。	コロナ禍で各部屋は確認できないが、写真で見ると利用者それぞれの好みや使いなれた品が持ち込まれている。家族来訪時は各部屋に入るので家族にも過ごしやすい場である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を含めた身体及び精神機能を勘案する中で、個々の動きに合わせた自立に向けた動線の確保を基本とし、安心して安全に過ごして頂けるような環境を工夫している。		